

平成 30 年度 第 1 回京都府立図書館協議会 議事要旨

1 開催日時

平成 30 年 7 月 5 日（木）午後 2 時から 5 時まで

2 場所

京都府立図書館（京都市左京区岡崎成勝寺町）

3 出席者

原田隆史会長、小川雅史委員、桂まに子委員、潮江宏三委員、西亜希子委員、松下亜樹子委員、矢納佳実委員

※欠席者 明致親吾委員、永田紅委員、村川広美委員

4 会議の内容

- (1) 平成 29 年度第 3 回協議会の議事録について
- (2) 平成 29 年度取組状況について
- (3) 平成 30 年度事業計画について
- (4) 評価基準案の考え方について
- (5) 今後のスケジュールについて
- (6) その他

5 協議事項

- (1) 平成 29 年度第 3 回協議会の議事録について

○事務局から概要について資料に基づき説明。

- (2) 平成 29 年度取組状況について

○事務局から概要について資料に基づき説明。

○委員意見

- ・ 内部評価について、他項目と連動・比較して相対的に「5」と判断されたものや、その項目における達成度合で絶対的に「3」と評価されたものがある。
今後、プロセス自体も一定程度公表すると一層よいのではないか。
- ・ 内部評価を実施するに当たっては、どのような形でどう評価をしたのかということ
を明確にして、年によって評価がぶれることがないようにすることが大切である。
→ 内部評価は管理職会議で原案を作成し職員から意見を募って作成した。例えば、職員から「4子どもの読書活動の支援」に関して、様々な課題を抱える子ども（ひとり親家庭・退所児童等）の生活習慣の確立と学習習慣の定着を支援するため知事部局が実施する「きょうとこどもの城づくり事業」への支援を受け、「こどもの居場所づくり」「子ども食堂」を実施する団体への本の貸し出しを開始したことを一層評価すべきとの意見があり、内部評価に反映させたところである。
- ・ 行政サービスへの支援を推進することにより府民への貢献を図る取組は評価できる。平成29年度はどこの課と連携したのか。今後は府庁への資料配送の取組を一層拡大すべきである。

→ 平成29年度はエネルギー政策課、水産課と連携した。平成30年度は全庁的に試行するため知事部局等を含めた主管課長会議で広報した。今後は資料相談等にも積極的に応じていきたい。

- ・ 高すぎる内部評価は見当たらないが、例えば項目11「非来館サービスの充実」ではホームページを150回以上更新しているという実績を考えると低すぎると感じる内部評価もある。もう少し高く評価してもよいのではないか。
- ・ 相互貸借のための連絡協力車の府内巡回を、これまでの週1回から週2回としたことは、利用者にとって待ち時間が大幅に短縮されるなど利便性の向上に大きく貢献しており高く評価でき、地域の図書館にとっても大変ありがたい取組である。
- ・ 平成29年度重点的な取組や新規の取組が緑色で示されており、多くのことに積極的に取り組まれている。

○会長意見

- ・ 委員からの意見を踏まえ、事務局提案の原案をベースとし大きな変更は考えていないが、内部評価が低すぎる部分を修正することも含めて私に一任いただきたい。(異議なく了承された)

(4) 評価基準案の考え方について

事務局から、議事進行上の都合により、「(3) 平成30年度事業計画」に先立ち「(4) 評価基準案の考え方について」について議論いただきたい旨提案し了承された。

○ 評価グループ長である桂委員から概要について資料に基づき説明。

- ① 原則としてサービス計画の20項目について評価基準、評価指標を示そうとするものであるが、その全てがどのような形で具体的に行おうとするかは定まっていない。
- ② サービス計画にも定められている3つの基本方針について、基本方針Ⅱ及びⅢはインプット、アウトプット、Ⅰはアウトカムを加えた評価手法を取り入れた、別々の評価手法を考えていこうとするもの。
現時点で具体的な評価手法が定まっていない中、できること、できないことを含め、幅広い視点で評価することが大切である。

○ 委員意見

- ・ 新しい取組や目に見える成果に加え、インプットが減少したのにこれまで同様の効果を維持できた場合や、減少量に対して効用の減少を抑えられた場合も高く評価すべきである。
- ・ 実際の評価にあたり、具体的に何がインプット、アウトプット、アウトカムに該当するのか難しい部分もある。実施回数や人数といった数値等に限らない、幅広い考え方や柔軟な視野をもって評価すべきである。
→ インプット、アウトプット、アウトカムについて、調べてみると、交通渋滞が慢性化している2車線道路に1億円投資して4車線にした場合、インプットが1億円、アウトプットが4車線化、アウトカムが交通渋滞の減であると記載されていた。ただ、この指標を府立図書館に当てはめるのは難しい面がある。
図書館としても、回数や人数といった数値や、個々個別の成果だけで評価す

るのではなく、よりよい図書館とするために挑戦しようとした部分等を含め、3つの基本方針のバランスも考え、府民にわかりやすい評価をしていきたい。

また、これまでから意見をいただいているとおり、評価のために多大な労力をかけるのは避けていきたい。

- ・ 示されている64の具体策の中には、今後、表現方法を見直した方がよいと思われるものがある。

典型例として項目13「歴史ある府立図書館の演出」の4つの具体策は、あまりにピンポイントすぎて○か×でしか判断できないことから、内部評価も2と非常に低くならざるを得なかったと考える。

府立図書館にはカルチャースポットとして明治以来果たしてきた重要な役割があるなど、府立図書館の歴史といったものを、どのように語り、またどのように活用していくのかといったことを数値にとられることのない幅広く柔軟な具体策とすれば、新たな創意工夫も生まれるのではないか。

- ・ ここに示されている具体策がアウトプット、インプット双方に当てはまるものもあるのではないか
- ・ 評価基準の設定は重要であることはいまでもないが、現実として実施困難であったり評価するに当たり多大な労力を要するようでは意味がない。例えば、図書館における通常業務の中で、文書様式にほんの少し付け足すことで、目的が実現できるような工夫を行った場合、それも評価していけばよい。
- ・ 府立図書館では様々なイベントを実施するなど、パフォーマンスを積み上げて府民にしっかりアピールしており、府民からのフィードバックがあれば、それは成果である。さらに、府立図書館サービス計画に掲載された評価指標の達成に向け、こういった取組が貢献しており、数値指標達成に向けた過程における成果である。
- ・ 様々な取組を展開する中で、評価基準案にも示されているとおり、「終了」についても大きな成果としてとらえるべきである。取捨選択がなければ業務量が増大する一方となり、時代の変化に応える運営も困難となる。
- ・ チャレンジしているという事実があれば、それだけでも評価してもよいのではないか。図書館自身も様々な工夫をしながら内部で議論を行い、前例のないようなものにも取り組んでいる姿勢を府民や利用者にも知ってもらえるよう広報していくことが大切である。

○会長意見

もう少し大きな枠組みも考えてはどうかといった意見を含め、ワーキンググループにおいて本日の意見を踏まえて議論いただき、次回以降にその結果を協議会に報告いただきたい。

(3) 平成30年度事業計画について

○事務局から概要について資料に基づき説明

○委員意見

- ・ 項目11「非来館サービスの充実」に関して京都府インターネット放送局「生涯学習講座」に「図書館活用講座」等5本の動画を公開とあるが、府立図書館のホームページには掲載されているのか。この表現では知事部局のホームページでしか閲覧できないように思う。この動画は非来館サービスの中でもきわめて重要であり、府民にとってもわかりやすい内容であることからしっかりPRすべきである。
- ・ 非来館サービスの充実そのものが非常に重要であることから、新規事業がほしい

ところである。

- ・府立図書館のホームページにもリンクを張っている。
 - ・新聞に図書館が記事として掲載されれば非常に大きなPR効果がある。
- また、ラジオ放送で連続講座が紹介され、リスナーが来館されたこともある。今後ともマスコミに取り上げていただけるよう積極的な情報発信に努めてまいりたい。
- ・平成30年度に新規事業が予定されているもの、また従前から取り組んでいるものも着実に進めたい。
 - ・市町村立図書館や大学図書館との相互貸借をはじめとした連携を一層強化し充実してまいりたい。
 - ・産官学プロジェクトの最終年度でもあり、この成果を次期システムに反映させなければならないなど業務が多岐にわたっており、メリハリをつけた運営をしていきたい。

・項目2「市町村立図書館等への支援」に関してパッケージ化した展示資料の貸出について教えていただきたい。

新しい取組が多く実施されることは高く評価したい。

- 市町村立図書館等から希望があれば当府立図書館が既に展示したセットを再利用していただいたり、リストの中から選んでいただいたものを貸し出ししたりしていきたい。

・全国の図書館でも来館者数を増やすため様々なイベントが実施されているが、知的な雰囲気を手軽に味わう場としての役割が最も大切である。

○ 会長意見

- ・本日は平成29年度を取組及び平成30年度の事業計画について議論を深めていただいた。「評価疲れとなつては本末転倒である。」「評価項目はもうすこし大きな枠組みも考えたほうがよいのではないか。」といった意見を踏まえた図書館運営に努めるとともに、ワーキンググループで議論を進めていただきたい。
- ・平成30年度の事業計画に関して、いずれも着実に進めることが大切な取組であることを確認する。
- ・様々な事業が予定されているが利用者の利便向上、満足度の向上に繋がるよう今後とも活動いただきたい。

(5) 今後のスケジュールについて

- ・次回は10月中下旬の開催を予定。

(6) その他

特になし